

第4回大洲市とGCOの環境に関する懇談会会議録

日時 平成17年8月11日(木) 午後2時～4時30分
場所 大洲市役所 5F会議

参加者

大洲市 首藤助役、上村市民福祉部長、山田市民福祉副部長兼保険環境課長、
藤田課長補佐、山本環境保全係長、青野生活衛生係長
GCO 加戸、武井、藤岡、松徳、尾形、久保、篠藤、中野
その他 武田、福住、三好

議 題

1. 環境問題の市民への啓発について

- (GCO) 行政と市民が連携して環境保全に取り組めるようコミュニケーションが取れるようなシステムを作ってほしい。環境問題について市民の意見を積極的に取り入れる姿勢は大洲市のイメージアップにつながり、観光にもプラスとなると思う。
- (大洲市) GCO単独の懇談会でなく、いろいろな団体が参加している環境団体である「大洲の環境を良くする連絡協議会」との年1回程度の懇談会の方がよりベターではないかと考える。
開催にあたっては、市が働きかけるのではなく、市民から働きかけてもらった方が動きやすい。
- (GCO) 私たちが以前からお願いしていた環境市民会議(名称はこだわりませんが)に近いものやっいていこうということですね。私たちGCOも環境を良くする連絡協議会のメンバーなので、次の例会で皆さんにお願いしようと思う。
内子町は旧五十崎町も含めて環境について熱心な地域で、広報誌でも「ごみを減らそう、小田川をきれいにしよう」と呼びかけている。環境市民会議のようなもののなかで、将来は内子町を含めた肱川流域全体の会議を目指していければと思う。
- (大洲市) 肱川の流域に限っては、肱川清流保存推進協議会でいろんな行事で住民の啓発を行ったり、流域の会議を持っている。内子町その他、西予市も入っている。

2. 地球温暖化対策について

(1) 温暖化対策実行計画の進捗状況について

- (GCO) 旧大洲市で温暖化対策実行計画を策定し、平成18年度に平成12年度比CO₂排出を3%削減する目標を立てているが、その後の進捗状況を知らせてほしい。

- (大洲市) 16年度はガソリン、灯油、重油で目標を大幅に上回って削減できている。
軽油が15年度より増えているが、これは台風災害による処理作業や給水作業、冬の除雪作業などの一時的増加である。
電気使用量の増加は、市町村合併に伴う職員増によるパソコンの増加が原因である。
- (GCO) 台風災害のために車以外の軽油が増えたのはやむを得ないと思うが、その原因は地球温暖化だから、節約できるところは節約するというところで努力してください。
18年度には、CO₂排出を12年度比3%以上削減する目標だが、16年度には3.6%増加しており、特に電気使用が11.8%増は大きい。

表1 CO₂排出量の推移(旧大洲市)

		ガソリン	軽油	灯油	重油	LPG	電気	合計
基準年度 12年度	CO ₂ 排出量 (t)	122	77	363	401	101	1,294	2,358
14年度	CO ₂ 排出量 (t)	132	57	344	406	105	1,359	2,402
	12年度比 増減率	7.5%	-26.3%	-5.3%	1.1%	4.1%	5.1%	1.9%
15年度	CO ₂ 排出量 (t)	129	48	338	381	103	1,351	2,350
	12年度比 増減率	5.4%	-37.0%	-6.8%	-5.0%	1.5%	4.5%	-0.3%
16年度	CO ₂ 排出量 (t)	113	73	331	377	103	1,446	2,444
	12年度比 増減率	-7.3 %	-4.7%	-8.8%	-6.0%	1.5%	11.8%	3.6%
18年度 目標	CO ₂ 排出量 (t)	115	73	354	393	99	1,253	2,287
	12年度比 増減率	-6.1 %	-4.9%	-2.3%	-2.0%	-2.1%	-3.1%	-3.0%

(2) 空調温度について

- (GCO) 実行計画では室温を暖房時20、冷房時28をめやすとするとしているが、先日、市の出先機関に行ったとき、室温が26になっていて「冷房は28ということになっていますよね」というと「そんなことは知らない」という返事だった。

(大洲市) 国の「クール・ビズ」運動、県の「夏のエコスタイル」運動を受けて、大洲市でも夏のビジネス軽装「クール・ビズ」運動を実施している。総務部長名で、適正冷房(28)の徹底、軽装の心掛けについて、支所も含め全所属長に通知を行っているが、周知徹底したい。

(3) 総合福祉センター各室へのサーモスタット設置について

(GCO) サーモスタットを設置し、冷房は28と掲示することで少なくとも20%~30%は節約できると思う。早急に設置してほしい。これまで予算がないとのことで拒否されていた。

保健センターへサーモスタット設置費用の寄付を申し出たが、施設運営に関する事なので、寄付はいただけないとの回答があった。

(大洲市) 16年度と12年度(基準年度)の灯油の使用量を比較すると、福祉センターでは、2.1%の減で、15年度と同量の使用量となっている。センターでは、各部屋で空調のオン・オフが可能であり、サーモスタットを設置しなくても、職員や利用者が注意することで、温暖化対策は実行できると考えている。

なお、寄付及びサーモスタット設置の件については、総務課、保健センターと再度協議する。

表2 総合福祉センター灯油使用量

	灯油使用量(ℓ)	平成12年度比
H12年度	75,600	
H13年度	72,000	-4.8%
H14年度	70,000	-7.4%
H15年度	74,000	-2.1%
H16年度	74,000	-2.1%

(GCO) 福祉センターの灯油が2.1%というのは、大洲市全体で8.8%減と比べて、削減率が低く努力が足りないと思う。サーモスタット設置など工夫をすべきだ。少なくともサーモスタットの設置費が灯油や電気の使用減で何年で償却できるかの試算は行うべきである。

(4) 市民や事業所への呼びかけについて

(GCO) 市役所や福祉センターなどに次のようなポスターを掲示してほしい。

例1) 冷房は28、暖房は20を目安としています。
温暖化防止のため、ご協力ください。

例2) 冷房は28に設定しましょう。
地球のためにチョットがまん。

このような掲示があれば、利用者や市民も協力するだろうし、職員も知らなかったということがなくなるはずだ。

水道の蛇口に「節水」と貼るように、エアコンのスイッチに「冷房28、暖房20」と貼ると効果があると思う。

(大洲市) ご提案のあった件については、作成する方向で検討したい。なお、「クール・ビズ運動実施中」とエレベーター付近に貼り出しをしている。

3. ごみ減量について

(1) ごみ収集処理量

(GCO) ごみの収集処分量の推移を示してほしい。

(大洲市) 旧大洲市及び旧長浜町ともに平成11年度より分別収集を導入しており、燃やすごみについては、導入前の平成10年度と比較すると旧大洲市で29%、旧長浜町で34%の減となっている。

その後、平成16年度までには、それぞれ若干の増減はあるものの、導入前に毎年増加してきた状況から判断すると分別収集による減量の効果があるものと思われる。

また、資源ごみについては、缶の収集量は減少しているが、その他ではペットボトルが増加傾向にあるのをはじめ、びんや古紙類等は安定した収集量を保っており、分別収集により順調にリサイクルが図られていると思われる。

内山衛生事務組合が収集している旧肱川町及び旧河辺村については、現在のところ、缶、びん、乾電池等は分別収集を実施していない。

また、平成9年度からの古紙類の分別収集実施に加え、平成15年度からペットボトル・トレイの分別収集を導入したことにより、燃やすごみについては、平成14年度と平成16年度との比較で旧肱川町が3.4%、旧河辺村が4.7%の減量となっている。

(2) ごみ減量のため、分別収集の改善を

(GCO) 燃やすごみ、埋立てるごみを減らすため、現在の6種分別を10種以上に増やし、再資源化を進めてほしい。温暖化防止、ダイオキシンの発生、有害物質の河川への流出を減らし、焼却施設の延命化のためにも必要である。

(大洲市) 平成11年4月より6種分別収集を導入し6年が経過した。現在でも一部市民には、分別が分かりにくい等毎日問合せがあるのが現状であり、分別種類を増やすことにより市民に抵抗があることが予想されることや、収集後の分別作業委託業務のコスト等の問題があり現在のところ実施する予定はない。

(GCO) 燃やすごみ、埋立てるごみ、共に減少傾向ではない。ごみ減量のため、市民の英知を集めるべきだ。
内子町のように生ごみを分別収集して、堆肥化することも今後考えていくべきだ。

(大洲市) 私たちも電気式生ごみ処理機に補助金を出すなど、不十分ではあるがそれなりに頑張っているが、ごみ減量になっているとは言えない。

(3) 資源紙について

a) 雑紙

(GCO) 雑紙(ざつがみ)を資源ごみとして回収することをPRしてほしい。

(大洲市) 市関係施設については、段ボール、雑誌、新聞紙に加え、コピー用紙、パンフレット類、封筒等の雑紙も含めて資源ごみとして回収している。一般家庭については、ごみ分別チラシ及びごみ分別辞典により雑紙も古紙として排出するよう呼びかけている。

事業所については、指導が十分ではないので、今後周知していきたい。

b) 機密文書

(GCO) 加戸病院では、保存期間を経過した機密文書を職員が八幡浜の製紙工場へ運び、再資源化している。喜多医師会病院でも業者と契約して再資源化している。大洲市でも実施してほしい。

(大洲市) 個人情報保護法が4月より施行されているが、個人情報が出れるということは絶対にやってはいけないことだ。そのために一番確実な方法は燃やすことだ。

(GCO) 機密文書は燃やすことが絶対だと考えるべきではない。焼却場へ持って行くときにも機密が出れることがある。

(大洲市) 製紙工場へ持って行くという選択肢は行政としてはちょっと考えにくい。

(GCO) 燃やすのが最善だという固定観念は持たないでほしい。焼却炉のホッパー(投入口)に入れるか、製紙工場のホッパーに入れるかの問題で、春賀の環境センターに持って行くか、八幡浜へ持って行くか、距離の差はあるが資源とするか燃やして温暖化を進行させるかは大きな差がある。

(大洲市) 情報漏洩のことと、費用対効果を考慮し、クリアできればそういうこともできると思う。ご意見をいただいたので、内部で詰めたいと思う。

c) シュレッダーごみ

(GCO) シュレッダーごみを燃やすことなく、再資源化してほしい。

(大洲市) ビニール袋に入れたシュレッダーごみは、紙袋に入れて古紙として出すように呼びかけたい。

(GCO) おおずグリーンセンターでは、ビニール袋に入っている中身を出して圧縮している。家庭ごみでは紙袋に入れて出すべきだが、市役所ではビニール袋のままで資源紙として出してよい。

(大洲市) 今後、そのようにする。

(4) 有害ごみについて

(GCO) 現在、埋め立てられている有害ごみ(蛍光管、電球、体温計など)を分別収集してほしい。水銀などで肱川が汚染される恐れがある。

(大洲市) 乾電池のリサイクル処理を委託している北海道の業者で蛍光灯等の処理を行うことができるが、運搬及び処理費用がかかることから現在検

討中である。

(G C O) 費用が要るとしても市民の安全・健康のためには分別すべきだ。松山市や八幡浜市では分別収集している。

(5) プラスチック類について

(G C O) 家庭では生ごみは別とすると、紙を再資源化するとプラスチック類が燃やすごみの大部分になる。松山市や八幡浜市にならって資源ごみとして収集してほしい。

(大洲市) 合併後でもあり、費用のこともあるので、すぐ来年からという訳にはいかないなので、今後検討させてほしい。

4 . 肱川清流条例について

(G C O) 現在の取り組みについて報告してほしい。

(大洲市) 平成 1 4 年度より、肱川流域の自治体 (大洲市、西予市、伊予市、内子町、砥部町) 及び国・県が肱川流域清流保全推進協議会を組織し、広域的に清流保全に取り組んでいる。

協議会では、昭和 3 0 年代の清流肱川の姿を平成 3 0 年までに取り戻すことを基本目標とし、各種取り組みを実施している。

水質浄化施設見学会、河川一斉清掃、流域一斉水質調査等を実施し、流域住民に対し、啓発活動を推進している他、肱川流域の汚濁負荷量を毎年検証している。

平成 1 6 年度末状況

* 汚濁負荷量 (B O D) は平成 1 0 年 (基準年度) より 5 8 0 トン削減されている。(達成率 4 0 %)

・生活系 1,610 t 1,300 t (310 t 減)

公共下水道、農業集落排水処理、合併浄化槽の普及によるもの。(1 6 年度末 流域内人口 111,538 人のうち水洗化人口 33,935 人 30.4%)

・家畜系 1,470 t 1,200 t (270 t 減)

「家畜排泄物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」(平成 1 1 年 1 1 月施行) により、管理施設の整備が進んだことによる。

(G C O) 目標数値の算出根拠を示してほしい。

(大洲市) 生活系については、平成 3 0 年に流域の水洗化率が 5 5 % になると仮定し算出している。詳しい数値については、後日報告する。

(G C O) 自然系の数値が大きいのが、何が含まれているのか。

(大洲市) 田、畑、山林である。腐葉土、農薬等が含まれている。

(G C O) 肱川へ流入する汚濁負荷が減りつつある、平成 3 0 年に昭和 3 0 年代の清流を取り戻せるというのは信じ難い。泳げるほどきれいになるだろうか。

鹿野川ダムに水を溜めることによって、蓄積するヘドロによる汚れは計算されているのだろうか。

- (大洲市) これは川に入る分だけで、川で発生する分は一切計算していない。
(GCO) ダムが汚れを増やして肱川が汚くなっていると思う。

5 . 合成洗剤と石けんについて

- (大洲市) 合成洗剤も磷がなくなるなどかなり改良されているので、石けんが一概に良いとは言えない。
(GCO) 石けんが良いとは言えないということか。
(大洲市) 合成洗剤が悪いということが言えないということだ。石けんがどのように良いか、今後勉強していきたい。
要するに、石けんも合成洗剤も環境を汚しているのは違いない。市がPRしたいのは、公共下水道、農業集落排水処理や合併浄化槽の整備が先決ということだ。
(GCO) 自分が石けんを使いたいと思えるような勉強会、合成洗剤が安くて便利だけど、自分の体にも川にも悪いということが理解できるような勉強会が、今必要だ。是非、市の職員も参加してください。
(大洲市) 市民に石けんを使ってくださいとは言えない。
(GCO) 例えば、内子町・五十崎町は小田川を汚さないように石けん使用を奨め、どこの店に石けんを置いているかまでPRしている。
(大洲市) それは内子町の考え方でしょうから。基本的には、一つの選択肢を強制はできない。情報を提供することはできる。
(GCO) 肱川をきれいにしようということであれば、石けんを使った方がよい。水生生物が水を浄化する。これを合成洗剤が殺す。石けんは界面活性作用を24時間以内に100%失う。合成洗剤は長期間界面活性作用を持ち、自然の浄化能力を害する。つまり、環境に悪い、肱川を汚すということだ。石けん使用推進をPRしてほしい。愛媛県も本庁や出先で石けんを使っている。
(大洲市) 100%それが実証されるなら我々も強く言うことができるが、この問題は論争の最中なので、それをベターですよというのは行政としてはいかなものか。
(GCO) 実証するデータはある。
(大洲市) 森田さんの講演を聴いて私はシャンプーは石けんを使っているが、行政としてはさきほどの話になる。

6 . その他

- (GCO) 先日の花火大会での出来事であるが、家族連れで来ていた市職員が、飲食後のごみを投棄するのを目撃した。道路のごみをボランティアで清掃している職員がいる一方で、このような職員がいることは大変残念である。
(大洲市) 職員教育を気をつけるようにしたい。
(GCO) 環境問題について何か新しい取り組みはないか。

- (大洲市) 毎年、何か一つはしたいと思っているが、昨年度は合併でゴタゴタして・・・。
- (GCO) 今年は？
- (大洲市) 何か一つしたいなと思うが、まだ半年あるので、考えさせてほしい。
- (GCO) 市民の力を引き出すのが一番よい。市の職員がごみを拾っているのを見て、それが市民に広がる。勉強会とか、他の市がまだやっていないことをすると、大洲市はよくやっているな、いい町だな、自分も大洲市民になりたいなと思えるような取り組みをしてほしい。
- (大洲市) 本日は長時間にわたり、貴重なご意見を賜りありがとうございます。特に温暖化対策については、まだまだ十分ではないので、今後積極的に取り組みたい。
- 7月25日市職員対象のセミナー「気象から見た環境とエネルギー」で「今年もあった水不足から豪雨といった現象が温暖化ですよ」との話があった。
- 今後、皆さんの貴重なご意見を検討し、可能なことから実行して行きたい。環境問題は行政だけでなく、民間の団体、市民、事業者一体となって、関心を持って行かなければと感じた。

7. 次回、懇談会の予定について

(合意事項)

市内の各団体が参加している「大洲の環境を良くする連絡協議会」が中心となって大洲市との懇談会を年1回程度、開催する方向でGCOが「良くする会」で提案協議する。時期は来年7月頃がよい。